

ナショナル・バイオリソース・プロジェクト・中核拠点整備プログラム  
広義キク属 平成 22 年度運営委員会議事録

日時：平成 22 年 11 月 29 日 13:30-16:00

場所：広島大学 理学研究科 附属植物遺伝子保管実験施設 1F 会議室

出席者

運営委員：

渡辺邦秋(運営委員会委員長・神戸大)、間竜太郎(農研機構花き研)、中田政司(富山中央植物園)、長谷川徹(愛知県農試)、深井誠一(香川大)

NBRP メンバー：

草場信(代表・広島大)、谷口研至(広島大)、増田優(広島大)

オブザーバー：

山崎由紀子(遺伝研)、福井邦明(文科省ライフサイエンス課)、石野齊(科学技術振興機構)

(順不同、敬称略)

平成 22 年度事業進捗状況

① 分子遺伝学的解析のためのリソース収集

モデル植物に選定したキクタニギクを中心とした交配によって得られた F<sub>1</sub> 及び F<sub>2</sub> 系統について、100 系統を目標に収集を進めている。新たな交配組合せとして、二倍体の *C. chanetii* とキクタニギク、同じく二倍体の *C. horaimontanum* とキクタニギクの F<sub>1</sub> 個体の収集を行った。現在種子が成熟するのを待っている状況。

② 野生ギクリソースの収集

国内の絶滅が危惧される種を中心に野生ギクの収集にしている。目標は 300 系統。現時点で 24 系統を収集。ノジギク、リュウノウギク、シマカンギク四倍体を中心に九州で 12 月に収集する予定。

③ マーカーライブラリーの作成

純粋性あるいは雑種性の確認等のためのマーカーを作成。キクの花色に関連する遺伝子 CmCCD4 の多型を CAPS マーカー化するなどにより新たなマーカーを作成した。

④ 収集した系統の保管・増殖・提供

保存数の目標は 7300 系統、提供の目標は 2200 系統、80 件。保存数はほぼ 7300 件を保っている。提供数は、現在のところ 49 件提供。MTA 締結中、予約を含めると、目標の 80 件に到達すると思われる。

⑤ プロジェクトの総合的推進

染色体データベースが広島大学のシステム上の問題でアクセス出来ない状況だったが、情報センターにご助力により、外部からのアクセスは可能な状態になった。いくつかの問題が残っているが、今後改善を図りたい。

## ⑥ その他

### ・実費徴収について

昨年の運営委員会では実費徴収は、郵送費以外は特に取る必要はないという結論だったが、平成 22 年度から人件費等も含めて以下のような徴収の形になった。申込者から申し込み連絡により MTA を送り、押印のうえ返送してもらう。リソースとこちらの印鑑を押した MTA を送付する。受領メールを受け取った後で、郵送費を含む料金を請求する（請求は大学の財務が行う。銀行振り込みにより徴収）。リソース自体は無料だが、配布するための手続きにかかる経費と郵送費、振込料は利用者が支払う形をとる。研究利用であれば、種の場合は 5 系統までは 200 円で、それ以降 5 系統ごとに 200 円が加算。株は研究利用は 10 株までが 600 円、それ以降 10 株ごとに 600 円を加算。産業利用はいずれの場合も 2 倍の値段を請求。

### ・本リソースを使用した新品種の開発についての報告

本リソースの野生ギクと栽培ギクの交配により育成されたキク新品種「アロمام」について。各種メディアで大きな話題になった（長谷川先生）。

## 議題

### ① モデル植物の開発状況について

二倍体であるキクタニギクを栽培ギクのリファレンスリソースとして活用していく方針を確認した。種間交雑によって種間に存在する多様性に関わる遺伝子をマップベースクローニングにより単離することをひとつの目標とする。そのためには多量の  $F_2$  種子が必要であるが、キク属は自家不和合性が強く難航している。全く違う  $S$  遺伝子を持つ系統で作成された  $F_1$  同士により  $F_2$  雑種を作るシステムを検討している。一度系統が確立すれば、多年生である性質を生かし、同じ植物を用いて何度でも交配が可能であり、多量の  $F_2$  種子を生産できると考えている。

### ② ナショナルバイオリソースのヒアリングについて

NBRP 事業のヒアリング資料について説明した。今年の異常気象のダメージ等からバックアップ機関の必要性について議論された。ホームページの充実・情報の更新等を通してよりアピールしていくことが必要。また研究コミュニティとの連絡をより密にして行く必要がある。